



※令和5年度入試につきまして、新型コロナウイルス感染症等の状況により、今後変更を行うことがあります。その際には、本学ホームページに掲載しますのでご確認ください。
※子ども教育学部（仮称）についての情報は随時本学ホームページにて公表します。

令和5年度 尚綱大学・尚綱大学短期大学部入試日程

Table with 6 columns: 区分, 実施学部・学科, 出願期間, 体験授業・面接等, 合格発表, 入学手続期限. Rows for 総合型選抜 (第1回・第2回).

Table with 6 columns: 区分, 実施学部・学科, 出願期間, 選考日, 合格発表, 入学手続期限. Rows for 学校推薦型選抜 and 編入学選抜.

Table with 6 columns: 実施学部, 出願期間, 選考日, 合格発表, 入学手続期限. Row for 編入学選抜.

取得可能な免許、資格
現代文化学部 文化コミュニケーション学科/司書 (国家資格)、社会調査士、プレゼンテーション実務士、観光実務士、日本語教師 (大学認定)
生活科学部 栄養科学科/栄養士免許 (国家資格)、管理栄養士国家試験受験資格、栄養教諭一種免許状、食品衛生監視員 (任用資格)、食品衛生管理者 (任用資格)、フードサイエンティスト、HACCP管理者、NRサプリメントアドバイザー
短期大学部 総合生活学科/秘書士、上級秘書士 (メディカル秘書)、情報処理士、社会福祉主事 (任用資格)、介護職員初任者研修課程資格、レクリエーションインストラクター、食生活実習マスター (大学認定)
食物栄養学科/栄養士免許 (国家資格)、食品衛生監視員 (任用資格)、食品衛生管理者 (任用資格)、フードサイエンティスト、社会福祉主事 (任用資格)、栄養製菓マスター (大学認定)
幼児教育学科/幼稚園教諭二種免許状 (国家資格)、保育士 (国家資格)、社会福祉主事 (任用資格)

尚綱大学・尚綱大学短期大学部 Web個別入試相談会

尚綱大学入試センターでは、高校生・保護者そして学校の先生方に尚綱の学びや入試についての説明や質問を受け付けるためWeb個別入試相談会を開設しました。
個別相談で「尚綱」の魅力をお伝えできればと思います。お気軽にご相談ください。
申し込み：本学ホームページWeb個別入試相談会申込ページから必要事項をご記入ください。
※相談を希望される前日までに申込みください。
(月曜日の場合、金曜日の12時までにお申込みを行ってください。)
おひとりでも、お友達や先生、ご家族と一緒に相談可能です。
使用アプリ：Google Meet・Zoomアプリを使用します。事前にインストールをお願いします。
時間：平日の9:00～17:30の間が対応可能です。
その他電話・メールでの個別相談もお申込みいただけます。詳細は、本学ホームページをご確認ください。



尚綱大学・尚綱大学短期大学部 検索

【お問い合わせ先】 入試センター TEL:096-273-6300 FAX:096-273-6781 E-mail:nyushi@shokei-gakuen.ac.jp

後 本学園の「熊本県SDGs登録事業者(第2期)」としての登録、高校生の「第4回アジア・太平洋水サミット」関連イベントへの参加など、SDGsに関連する活動が広がっている。学校の垣根を越えて社会との関わりを持ち、課題を解決するために自ら行動する、この行動の積み重ねが世界を良い方向へ変えていくのだろう。学生、生徒、教職員が1つとなり、持続可能な未来に向けたSDGsの取組みを今後も発展させていきたい。(Y・N)

○皆様のご意見・ご感想をお寄せください。 編集・発行/尚綱学園 編集スタッフ/黒瀬英夫、新納ゆりか、倉崎真優、坂本実奈美、馬場美聡、増本紗希 〒862-8678 熊本市中央区九品寺2丁目6-78 TEL.096-364-0116 FAX.096-363-6520 メールアドレス koho@shokei-gakuen.ac.jp

YouTube公式チャンネル 尚綱大学・尚綱大学短期大学部 YouTube公式チャンネル. Includes QR code and description.

LINE 尚綱大学・尚綱大学短期大学部. Includes QR code and description.



尚綱大学 尚綱大学短期大学部
尚綱高等学校 尚綱中学校 (中高一貫)
幼保連携型認定こども園
尚綱大学短期大学部附属こども園



礎

ISHIZUE

尚綱学園広報誌

2022年 春夏号 Vol.37



尚綱学園キャラクター「花くま」



尚綱大学短期大学部附属こども園

Vol.37 CONTENTS

尚綱大学 尚綱大学短期大学部 P1 - P2
尚綱中学校 尚綱高等学校/尚綱大学短期大学部附属こども園 P3 - P4
寄附者芳名録/古本募金/新任教職員紹介 P5
令和3年度決算の概要と事業報告/令和4年度事業計画 P6 - P9
インフォメーション P10
入試日程 裏表紙



尚絅大学 尚絅大学短期大学部

こども教育学部こども教育学科(仮称)設置認可申請中

尚絅大学では地域社会における慢性的な保育者不足と、高度化・多様化する幼児教育・保育に対応できる高い実践力を持った保育者の養成を目指し、令和5年4月に武蔵ヶ丘キャンパスに4年制の新学部「こども教育学部こども教育学科(仮称)」(設置認可申請中)を開設予定です。この新学部においては、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の取得に加え、保育現場からの需要が高まっている特別な支援を必要とする子どもへの指導等について学ぶ授業科目や、特別支援学校教諭一種免許状を取得できるカリキュラムを設け、地域社会からの要請に対応できる高い専門性を身につけた幼児教育・保育者の養成を図ります。また、「保育」と「食」の両面から子どもの成長と食の関わりを学ぶ授業科目など、本学ならではのユニークな学びを通じ、就業後は保育現場のリーダーとして活躍できる保育者の養成を目指します。今後は短期大学部の幼児教育学科とともに地域社会における幼児教育・保育の質的・量的ニーズに応えていきます。

卒業式

令和3年度尚絅大学・尚絅大学短期大学部卒業式を、令和4年3月16日(水)に熊本県立劇場演劇ホールにて挙行了しました。今年度は、大学110名、短期大学部267名、合計377名の学生たちが卒業しました。



昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、万全な感染対策のもと、出席者の制限(卒業生のみ)及び時間を短縮して行いました。式典では、学業成績が優秀で品行方正な卒業生が各学部・学科から1名ずつ計5名選ばれ、育英褒賞が授与されました。

令和3年度 春季キャリアガイダンス開催

就職活動を始めるに当たり、今後の就職活動や働くことへのイメージを持ってもらうため、令和4年3月17日(木)～18日(金)に大学3年生、短大1年生を対象としたオンライン合同企業説明会を開催しました。また、就職活動に必要な面接のポイント、身だしなみやメイク、マナー等を確実に身に付けてもらうため、面接対策講座・メイクアップ講座・マナー講座を大学1、2年生も含め全学年に向けてオンデマンドで配信しました。



これからも、学生の皆さんが希望する就職先や進路に少しでも応えられるよう、教職員一丸となって日々支援に努めてまいります。

入学式

令和4年度尚絅大学・尚絅大学短期大学部入学式を令和4年4月5日(火)に挙行了しました。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から新入生及び教職員のみ参加とし、十分な感染対策のもと尚絅アリーナで行われました。



大学108名、短期大学部258名の合計366名の新入生が真新しいスーツに身を包み、新たなスタートを切りました。式典後には、各学部・学科に分かれて入科式も行われました。

尚絅子育て研究センター

第1回乳幼児保育研究会を開催しました。

第1回乳幼児保育研究会は、令和4年4月20日(水)に実施し、30名の先生方の参加がありました。新型コロナウイルス感染症の防止に努め、対面とZoom(オンライン)の併用で行いました。報告者は、幼児教育学科非常勤講師の相澤先生、はげみや保育園の姫野先生でした。子どもの発達の道筋を正しく理解し、発達に応じた環境を考え、発達に応じた関わりをすることが大切であること、子どもの育ちと保育の評価を行い、今年度の保育をスタートすることなどについて意見が交わされ、学びを共有することができました。

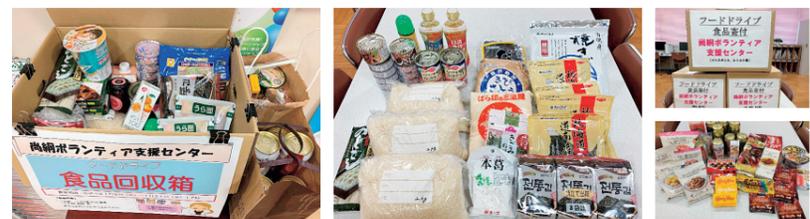


令和4年度も、保育の質向上をめざし、現場の保育者の先生方との学びの場である「乳幼児保育研究会」を実施します。保育実践についての報告の後、子どもの豊かな育ちのために、明日の保育に繋げるために、議論を深め合っていきたいと思っています。また、研究会終了後は、「保育Café」を開催し、保育の悩みをざっくばらんに話し合う場を設けていきます。

尚絅ボランティア支援センター

フードドライブボランティア活動を行いました!

尚絅ボランティア支援センターでは、食べられるにもかかわらず食品が廃棄される「食品ロス」削減と、生活に困った人々や、ひとり親世帯、福祉施設等に食品を提供する「フードドライブボランティア」活動を行いました。学生、教職員より缶詰やインスタント食品の他、米や調味料、お菓子、飲み物など、合わせて109個の食品が寄せられました。届いた食品は、令和4年2月4日(金)に、フードバンク熊本を運営する熊本藤富保育園に持参し、寄付しました。



尚絅地域連携推進センター

くまモン学の研究成果を熊本県蒲島知事に報告しました。

熊本県との連携協定に基づき進めている「くまモンに関する研究」の成果を、令和4年3月25日(金)に蒲島知事に報告しました。

山縣学長の「くまモンがかけがえない地域資源であることを改めて認識した」との挨拶の後、現代文化学部桑原芳哉学部長、畠山真一教授、柳田紀代子教授からそれぞれ報告を行いました。

蒲島知事からは、「大変興味深い内容であった。くまモンは地震や豪雨の際に熊本を応援する人々の橋渡し役など単なるPRキャラクターにとどまらない存在、来年度から予定しているくまモンランド化構想においても、貴学との連携を進めたい」との発言がありました。

本学では令和4年度以降も研究をさらに進め、学生の学びや地域への還元を進めていきます。



くまモン学プロジェクト 熊本の郷土料理の歴史・レシピを漫画化しました。



尚絅大学・尚絅大学短期大学部が共同で実施している「くまモン学プロジェクト」の一環として、生活科学部、短期大学部食物栄養学科の先生方の監修のもと、現代文化学部の学生と尚絅高校の生徒が熊本の郷土料理の歴史・レシピのマンガ化を行いました。

マンガ化の題材となったのは「納豆」、「せんだご汁」、「一文字のぐるぐる」、「加勢以多」、「からし蓮根」、「南関あげ」など熊本を代表する郷土料理ですが、今回は、「せんだご汁」と「南関あげ」を紹介します。

このような取り組みを通じて、熊本の食文化の豊かさをさまざまな角度からお伝えしていきたいと思っています。



次号ではこの他のマンガを紹介予定です! お楽しみに!

◀「南関あげ」
現代文化学部2年 一野琴美さん・田代理子さん・井口愛生さん

▼「せんだご汁」
尚絅高校2年 白石結愛さん





尚綱中学校 尚綱高等学校

「第4回アジア・太平洋水サミット」関連イベント参加

令和4年4月23日(土)、24日(日)に熊本市の熊本城ホールで開催された「第4回アジア・太平洋水サミット」関連のイベントに、本校の高校2・3年生10名が参加しました。

開会式へ参加した生徒は、天皇陛下のお言葉や記念講演、岸田首相のご挨拶などを直接聞くことができ、大変貴重な経験となりました。「ユース水フォーラム熊本(YWFK)」の活動の一環で展示ブースの運営を行った生徒たちは、活動や作品の紹介、「世界に伝えたい熊本の水」について大西市長やオランダ大使などブースに立ち寄られた方々に直接説明を行いました。生徒たちが持続可能な水資源の活用や環境問題などへの対策をまとめた「熊本未来宣言」が採択され、今後は国際会議で日本の取り組みとしても発表されます。本校生徒たちのSDGsに関する学びを発信する良い機会となりました。



卒業式

令和4年3月1日(火)、尚綱アリーナにて「第74回卒業証書授与式」を挙行了しました。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、卒業生・保護者・教職員のみによる式となりましたが、厳粛な中にも心温まる式典が執り行われました。卒業生代表の答辞では、3年間の学校生活を振り返りながら、お世話になった方々への感謝の気持ちが述べられました。

また、3月11日(金)に中学校の卒業式を行いました。中高一貫コースとして高校でも本校での学びは続きますが、義務教育を終える大きな成長の節目です。保護者の方々や教職員の見守る中、学校長から生徒一人一人へ卒業証書が授与されました。学校長式辞、担任からのお祝いの言葉の後で、卒業生一人一人から家族や友人、教職員への感謝の言葉が述べられました。



入学式

令和4年4月9日(土)尚綱アリーナにて、令和4年度尚綱中学・高等学校の入学式を行いました。真新しい制服に身を包んだ新入生が、保護者の方々と共に自分のクラスを掲示板で確認した後、次々とアリーナ内に進んでいきました。晴天に恵まれた暖かい春の日となり、新入生の表情は誰もが皆晴れやかでした。学校長の入学許可宣言、式辞、そして中学生・高校生の新入生代表者による誓いの言葉と続きました。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、短縮した形ではありましたが、新しい学校生活を始める新入生にふさわしい厳かな式となりました。



中学3年生 修学旅行

令和4年3月17日(木)・18日(金)に、中学3年生は大分・別府へ1泊2日の修学旅行に行きました。1日目は湯布院での散策後に宿泊先のホテルに入り、ボウリングとビュッフェを堪能しました。

2日目は別府の地獄巡りと水族館見学でした。地獄巡りでは傘を差しながらの見学でしたが、別府ならではの風情を楽しみ、水族館では海洋生物について学びました。

コロナ禍での短い旅行となりましたが、生徒たちは大いに楽しみ、クラスメイトとの中学最後の良い思い出を作ることができました。



高校2年生 修学旅行

令和3年11月27日(土)～28日(日)の1泊2日で、高校2年生が長崎へ修学旅行に行きました。コロナの影響で行き先の変更や日程の縮小などがありましたが、感染対策を行いながら、無事に実施することができました。

1日目はハウステンボスで午後から自由行動、2日目は九十九島水族館「海きらら」へ行きました。短い旅行ではありましたが、集団の一員としての自覚を持ちながら規律や秩序を守る態度を身に付けることができました。

クラスメイトと充実した時間を過ごし、思い出に残る2日間になったようです。



尚綱大学短期大学部附属こども園

修了証書授与式(卒園式)

令和4年3月17日(木)に令和3年度の修了証書授与式(卒園式)を行いました。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症防止のため、年長組3クラス合同ではなくクラス毎に3回に分けて実施しました。今年度の卒園児は83名でしたが、式には81名が出席しました。

園長が園児一人一人に「おめでとうございます」のお祝いの言葉を添えて修了証書を手渡しました。園児達は大きな声で「ありがとうございます」のお礼の言葉とともに証書を受け取っていました。

コロナ禍が続く中で休園や登園自粛期間が長く続き、行事が中止となったり、簡略化されたりしました。それでも、それぞれが園生活でのたくさんの思い出を胸に巣立って行きました。

また、当日に出席が叶わなかった2名の園児には、後日、2日にかけて修了証書授与式を行い、お祝いをしました。



入園式

令和4年4月12日(火)に令和4年度の入園式を行いました。式には、今年度入園の73名、昨年度途中入園の5名の78名とその保護者が出席しました。今年度も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症防止のため、保護者は園児と並んで各ご家庭1名のみ入場とし、写真やビデオは会場の外からお撮りいただきました。

園長による式辞の後、0歳から年長までの各クラス担任の紹介を行い、保護者のみなさまのご協力で短時間のうちに無事終了しました。式後、晴天の下、親子とも笑顔で記念写真を撮っていただきました。

新型コロナウイルスが1日でも早く収束し、園児達の園での生活が、日々の遊びや行事等を通して明るく楽しいものとなり、健やかに成長してくれることを祈っています。





「尚綱学園創立130周年記念募金」～教育・研究の施設、設備充実のための募金～の報告とお願い

Table with 3 columns: 寄附金内訳 (個人・法人等 3件 / ¥5,400,000, 現旧 役員・教職員 3件 / ¥600,000, 合計 6件 / ¥6,000,000), 卒業生・現旧役員教職員・個人・法人 (順不同), 森下 ひろ子様, 尚綱学園後援会様, 光多制服様, 山縣 ゆり子様, 坂田 敦子様, 林田 俊一郎様

■申込及び振込方法等は尚綱学園のホームページをご覧ください。
[お問い合わせ先]学校法人 尚綱学園 学園事務局総務部経理課 寄附金担当 [TEL]096-364-0116 [FAX]096-363-6520 [E-mail]keiri@shokei-gakuen.ac.jp

「尚綱学園古本募金」

「尚綱学園古本募金」は、取引集荷・査定換金・募金送金の運営を「古本基金さしやぼん」(運営:嵯峨野株式会社)に委託して実施しています。皆様からのご支援をお待ちしております。

Table with 3 columns: 寄附金内訳 (個人・法人等 2件 / ¥1,232, 現旧 役員・教職員 0件, 合計 2件 / ¥1,232)

〈WEBで申込む〉 尚綱学園 古本募金
〈電話で申込む〉 ☎0120-29-7000
Kishapon.com/shokei-gakuen/ (受付)24時間・365日 オペレーターに団体ID [172]とお伝えください。(受付)9時～18時・365日
【お申込みと集荷について】 電話またはWEBからお申し込みいただくだけで、ご指定の時間にご自宅まで宅配業者が受け取りに伺います。5冊(5点)以上であれば送料無料です。

熊本県SDGs登録事業者に登録されました

学校法人尚綱学園は「熊本県SDGs登録制度」において熊本県SDGs登録事業者(第2期)として登録されました。熊本県SDGs登録制度は、熊本県内の企業等が、自らの活動とSDGsとの関連性を認識し、SDGsの達成に向けた具体的な取組みを推進することにより、SDGsの普及を促進することを目的として創設された制度です。本学園は、持続可能な社会を実現する為にSDGsの取り組みを進めていきます。



©2010熊本県くまモン

新任教職員紹介

(令和4年4月1日～7月1日着任)

- 尚綱大学現代文化学部／文化コミュニケーション学科
塩谷 さやか(教授)
小野澤 泰子(准教授)
■尚綱大学生活科学部／栄養科学科
平野 修(教授)
寺本 ミユキ(准教授)
前淵 元宏(准教授)
古澤 愛佳(助手)
松田 裕香(助手)
宮田 有里恵(助手)
■尚綱大学短期大学部／総合生活学科
竹下 正高(准教授)
吉村 千恵(講師)
■尚綱大学短期大学部／幼児教育学科
浜崎 隆司(教授)
矢野 潔子(教授)
岩永 留美(講師)
草野 舞(講師)
佐竹 貴明(助教)
■尚綱中学・高等学校
那加野 道聡(教諭)
瀧川 優(教諭)
中本 陽香(教諭)
松尾 英範(教諭)
澤井 隆(講師)
紫藤 史亨(講師)
長南 駿(講師)
松木 蘭 西(講師)
森 陽子(講師)
ニッター・ジャクリン・サクラ(ALT)
■尚綱大学短期大学部附属こども園
和泉 久仁子(保育教諭)
井上 あみ(保育教諭)
尾方 来夢(保育教諭)
米田 恵吏佳(保育教諭)
野口 璃音(保育教諭)
東 玲卯(保育教諭)
村上 里菜(保育教諭)
草野 舞(養護教諭)
泉田 誠吾(運転手)
■尚綱大学・尚綱大学短期大学部／九品寺キャンパス
植村 広亮(庶務会計課係長)
松下 尚史(入試課係長)
岩本 武大(職員)
神本 正輝(職員)
齊藤 麻理恵(職員)
高林 侑希(職員)
田口 裕理(職員)
中川 裕介(職員)
藤田 紗香(職員)
山下 香菜(職員)
■尚綱大学・尚綱大学短期大学部／武蔵ヶ丘キャンパス
梶原 克彦(事務部長)
西山 弘樹(教務課長)
内野 菜摘(職員)
緒方 将人(職員)
門崎 香琳(職員)
平木 麻里(養護教諭)
■学園事務局
清田 順次(経理課長)
※順不同・敬称略



学校法人尚綱学園 令和3年度決算の概要

1. 決算の概要

学校法人尚綱学園の令和3年度決算は、令和4年5月30日開催の理事会において承認・議決され、同日開催の評議員会に報告されました。また、監事及び監査法人の承認を得ております。以下、その内容についてご説明いたします。

(1)資金収支計算書 資金収支計算書は、当該年度の教育研究活動に対応するすべての資金の収入及び支出の内容を明らかにして、支払資金の収入及び支出の顛末を明らかにしています。

資金収支計算書要約 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで (単位:百万円)

Table with 4 columns: 資金収入の部, 令和3年度, 前年度, 増減, 資金支出の部, 令和3年度, 前年度, 増減. Rows include 学生生徒等納付金収入, 手数料収入, 寄付金収入, etc.

資金収支計算書の収入の部において、学生生徒等納付金収入は1,443百万円となり、前年度比54百万円増加しました。また、補助金収入として829百万円を計上し、前年度比69百万円増加しました。

支出の部では、人件費支出は1,568百万円であり、前年度比86百万円増加しました。教育研究経費支出は427百万円で前年度比14百万円減少、管理経費支出は143百万円で前年度比4百万円減少しました。

補助金収入における増加要因は、経常費補助金及び高等教育修学支援に係るもので、これに伴い教育研究経費の奨学費支出も増加しております。また、施設関係支出は3百万円となり、前年度比988百万円減少しました。これは、前年度に九品寺キャンパス大学7号館建設費計上によるものです。以上の結果により、次年度繰越金は787百万円となり前年度比206百万円増加いたしました。

(2)事業活動収支計算書 事業活動収支計算書は、当該年度の事業活動収入と事業活動支出の内容、収支状況を明らかにして、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを示しています。

事業活動収支計算書要約 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで (単位:百万円)

Table with 4 columns: 事業活動収入の部, 令和3年度, 前年度, 増減, 事業活動支出の部, 令和3年度, 前年度, 増減. Rows include (教育活動収入計), 学生生徒等納付金, 手数料, etc.

事業活動収支計算書の収入の部、支出の部については、資金収支計算書の収入の部、支出の部と同様の項目が多く含まれています。令和3年度の事業活動収支計算書における特徴的なものは、学生生徒納付金及び経常費等補助金の増加を主要因とした事業活動収入が前年度比177百万円増加したことに対し、人件費及び大学7号館建設等に係る教育研究経費・管理経費の減価償却額の増加を主要因とした事業活動支出が前年比147百万円の増加となりました。

その結果、教育活動収支差額は△197百万円となり、前年度比52百万円改善しました。同様に基本金組入前当年度収支差額は△212百万円となり、前年度比30百万円改善しました。



令和3年度決算の概要と事業報告

(3) 貸借対照表 貸借対照表は、一定時点(決算日)における資産、負債、基本金の内容と在高を明示して、学校法人の財政状況を明らかにしています。

貸借対照表 令和4年3月31日

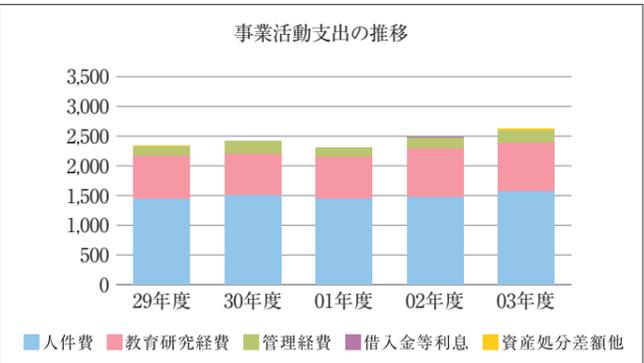
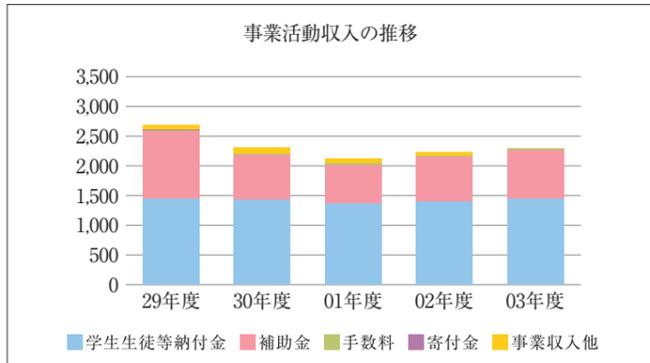
資産の部 (単位:百万円)				負債の部 (単位:百万円)			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	9,802	10,381	△ 579	固定負債	872	1,141	△ 269
有形固定資産	8,338	8,770	△ 432	長期借入金	567	800	△ 233
土地	1,023	1,023	0	退職給与引当金	281	288	△ 7
建物	5,702	6,019	△ 317	長期未払金	24	53	△ 29
構築物	325	356	△ 31	流動負債	786	616	170
教育研究用機器備品	320	392	△ 72	短期借入金	233	0	233
管理用機器備品	48	38	10	未払金	61	73	△ 12
図書	913	931	△ 18	前受金	450	502	△ 52
車両	8	12	△ 4	預り金	42	41	1
建設仮勘定	0	0	0	災害損失引当金	0	0	0
その他の固定資産	1,464	1,611	△ 147	負債の部合計	1,658	1,757	△ 99
有価証券	20	20	0	純資産の部			
退職給与引当特定資産	300	550	△ 250	科目	本年度末	前年度末	増減
減価償却引当特定資産	100	100	0	第1号基本金	14,504	14,651	△ 147
施設設備引当特定資産	826	726	100	第3号基本金	176	176	0
第3号基本金引当特定資産	176	176	0	第4号基本金	148	148	0
施設設備寄附金引当特定資産	21	12	9	基本金の部合計	14,829	14,975	△ 146
流動資産	928	659	269	翌年度繰越収支差額	△ 5,756	△ 5,692	△ 64
現金預金	787	581	206	繰越収支差額の部合計	△ 5,756	△ 5,692	△ 64
未収入金	116	52	64	純資産の部合計	9,072	9,284	△ 212
有価証券	0	0	0	負債及び純資産の部合計			
仮払金他	25	27	△ 2	科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部合計	10,730	11,040	△ 310	負債及び純資産の部合計	10,730	11,040	△ 310

令和3年度末における固定資産(土地・建物・機器備品・特定資産他)と流動資産(現金預金・未収入金他)を合わせた資産の部合計は10,730百万円、建物や教育研究用機器備品の償却により、前年度末と比べて310百万円減少しました。

一方、長期未払金等の固定負債と前受金及び未払金等の流動負債の合計額は1,658百万円となり、前年度末と比べて99百万円減少しました。これは前受金の減少が主な要因です。

事業活動収支の推移

事業活動収支の推移 (単位:百万円)					
収入の部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学生生徒等納付金	1,443	1,418	1,364	1,389	1,443
経常費等補助金	1,144	760	652	758	826
手数料	23	20	24	22	20
寄付金	6	4	8	3	2
付随事業収入+雑収入	66	104	74	55	3
事業活動収入計	2,802	2,317	2,122	2,236	2,413
基本金組入額合計	△ 39	△ 75	△ 525	△ 532	0
支出の部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費	1,443	1,500	1,448	1,473	1,560
教育研究経費	733	696	698	818	826
管理経費	158	224	168	186	208
教育活動外支出	0	0	0	2	4
特別支出	4	0	0	0	27
事業活動支出計	2,338	2,420	2,313	2,478	2,625
基本金取崩額	2	2	0	0	147



2. 事業の概要

学校法人 尚綱学園

- (1) 経営力の強化
① 令和4年3月、ガバナンス・コードの取組状況を点検し、全ての項目について遵守状況は良好であった。検証結果はホームページに掲載した。
② 令和4年3月、第二期中長期計画キックオフミーティングを開催し、策定に着手した。
③ 各設置校の自己点検評価及び外部評価を理事会・評議員会で報告し公表した。指摘された課題・問題点について事業計画に反映させる等、適切な対応を取った。
④ 行動規範について新入職員研修、SD研修会等を通じて周知徹底を図った。
⑤ 中高大連携推進協議会による計画に基づき、中高大連携授業23回、大学授業体験8回、学部学科説明会を2回実施した。
(2) 強固な財務基盤の構築
① 令和2年度決算確定後、中期財務計画の進捗状況、設置校別の収支状況を検証し、理事会・評議員会で報告した。
② 定員充足率向上に向けた分析を行い施策を取り組んだが、令和4年度の新入学生の実績は例年以上に低調であった。
③ 新型コロナウイルス感染症対策及びDX推進について補助金を活用しながら取組んだ。
(3) 人材育成の強化
① 新入職員研修プログラムを策定し、4月採用の教職員全員に新入職員研修を行った。
② 令和3年4月に人事評価の年間スケジュールを周知徹底し、10月に人事・労務管理者に人事評価訓練の研修を実施した。
③ 全学的なSDの取組みとして、7月に決算及び財務分析研修会、3月にハラスメント研修会を実施した。
(4) 施設設備及び教育・研究環境の充実
① 現代文化学部移転後の施設設備を大規模改修し、新学部が利用できるよう計画を進めた。
② 武蔵ヶ丘キャンパス新学部改修工事に伴い、バリアフリー化の計画を進めている。

尚綱大学・尚綱大学短期大学部

- (1) 教育と学修の充実
① 建学の精神、教育理念に基づく自校教育の推進として、全学共通開講科目・基礎セミナーに取り組み、全学科で点検・評価を実施した。
② 対面授業を基本として、それと同等以上の学修効果が得られる場合はオンライン、もしくはハイブリッドでの授業に取り組んだ。この中で、対面授業での有用な教育ICTツールやオープン教育リソースの活用も進めている。
③ 学修成果の計測・評価・情報公表として、各学科の特性に応じてPROGテスト、学修行動調査、各種実力認定試験等を実施し、試験の結果・分析や免許・資格の取得状況をホームページ上で公表した。
(2) 学生の確保
① ことども教育学部(仮称)設置認可について、文部科学省及び厚生労働省に、大学設置認可申請、教職課程認定申請及び指定保育士養成施設新規設置申請を行った。
② 現代文化学部の完成年度にあたり、カリキュラムの再検討などによる教育内容の充実、キャンパス移転に伴う他学部・学科、併設高校等との連携強化、効果的な広報活動の課題に取り組んだが、入学者減という結果になり令和4年度方針の再検討を行った。
③ 生活科学部におけるコース等の検討で、管理栄養士養成課程に、新たに3領域(臨床栄養・フードデザイン・栄養教育)の専門性を強化したスキルアッププログラムを導入することを決定した。
④ 全学部において、「学力の3要素」について多面的・総合的に評価できる方法を検討し、各入試区分の評価方法を統一するとともに、アドミッションポリシーを改正し、入学者選抜方法の見直しを実施した。
⑤ 高大連携の推進と内部進学率の向上として、併設高校への出前授業や大学授業体験等を実施するとともに、併設高校向けの入試奨学金の周知広報を実施した。
(3) 学修環境の整備
① 学生の心身の健康維持・向上のため、コロナ禍の学生生活への影響を調査項目に加えた疲労蓄積度調査、及び学生生活実態調査を行い、特に心的疲労度の高い学生については、臨床心理士及び養護教諭と連携して対応した。
② 新たな学生相談体制構築のため、九品寺・武蔵ヶ丘の両キャンパスに、キャンパスソーシャルワーカーを配置した。
(4) 学生支援の充実
① 学生生活実態調査の調査項目を見直し、学生の満足度を把握し向上させる内容となるよう変更した。
② 総合生活学科で「退学防止班」を設け、退学・休学の可能性のある学生について早期の対応・継続的な支援方法を検討し、学生との個別面談、保護者との三者面談を実施した。
③ 入学時のオリエンテーション、オリエンテーション後の対象者説明会などで、各種奨学金の周知を行った。
④ クラブ・サークル活動支援のため、新学期にクラブ・サークル募集案内を新入生に配付した他、歓迎行事で各部長による活動の紹介を行うなど学生に助言した。また、現代文化学部の九品寺キャンパス移転に伴い、クラブ・サークル室の環境整備を行った。
(5) 研究力の強化
① 研究倫理の遵守のための諸活動として、研究倫理に関する諸規程と研究倫理教育実施要領に基づく教育(eラーニング)の内容について確認を行い、教職員が受講した。
② 各グループ・各学科において、「くまモン学」プロジェクトや人吉の復興プロジェクトをはじめ、東京医科歯科大学共同拠点への参画、織月酒造等企業や県内幼児教育関連施設との連携で産学官との共同研究を推進した。
③ 尚綱食育研究センターにおいて「保育所における食物アレルギー対応」をテーマに、対面・オンラインのハイブリッド方式で尚綱食育シンポジウムを開催した。
(6) 社会連携の拡充
① 尚綱子育て研究センターの地域連携として、各団体と連携しながら、週1回以上、ひとり親世帯及び生活の厳しい世帯の子どもと親への相談・支援を実施した。
② 尚綱食育研究センターの活動として、湯前町や瀬の本高原リゾートとの連携で郷土料理(骨かじり)のアレンジや地元食材利用スイーツのレシピ開発を行い、販売された。
③ 大学コンソーシアム熊本を活用した地域連携を進めるためのプラットフォームへの参画及びその中期長計画を取り組んだ。
(7) 国際交流の体制整備と拡充
① グローバルラウンジを活用し、中国語・韓国語・英語等のオンライン講座や、海外協定大学とのリモート交流を積極的に実施した。併設高校生も韓国語の学習に参加した。
② 新たな教育研究機関との交流協定締結等を検討しているハワイ大学マノア校と大学間協定10周年を迎えた慈恵大学(台湾)の間で「オンライン留学」を実施した。
(8) IR機能強化と自己点検・評価への適切な対応
① 大学企画室機能の強化のため、入試課及び教務課等の他部署と連携し、入試状況・就職状況・学修状況等に関する分析を実施した。
② 令和4年度より大学と短期大学部の認証評価機関を「日本高等教育評価機構」に統一することとした。

尚綱中学・高等学校

- (1) 特色ある教育の確立
① グローバル教育の充実として、留学生を含めて英語でのピピリオバトルやスピーチ大会を2回実施した。オンライン留学では中学5名、高校15名が参加し、中学2年・3年において週1回のオンライン英会話を実施した。
② 教科指導力向上のため、ICT活用を中心とした教科内授業研修会を実施し、教科ごとに新学習指導要領に向けてのオンライン研修に参加した。
③ 新型コロナウイルスの影響で登校できない生徒に対して、授業のZOOM配信を実施した。
④ 新学習指導要領を見据えた進路指導の研究と強化に取り組んだ。
⑤ 各コースの生徒の実態に合わせた観点別評価を含んだ評価方法について検討した。
⑥ 中高大連携の強化に向けて、中高大連携事業・授業の実施および見直しに取り組んだ。
(2) 教育の質向上
① 教科の枠を超えて、ICT関連の授業見学を実施し、研修を行った。
② 「総合的な探求の時間」の充実をはかり、キャリア教育の充実と関連づけて取り組むことに着手した。
③ 主権者教育、消費者教育等の充実に向けて、学年・各クラスで進路学習を中心に計画的に実施した。
(3) 生徒支援の確立
① 体育祭や文化発表会等、時間制限や規模縮小等の措置を講じて実施した。
② 教育相談の充実として、1学期の面談時間を利用して全校一斉に教育相談を実施した。
③ 入寮生徒について、担当教員による寮訪問とカウンセラーによる面談を実施し、クラス担任、保護者との連携強化を図った。
(4) 地域貢献の充実
① ボランティア活動として食物愛好会がフードバンクのボランティアに参加した他、ユニクロが公募した「届けよう、服のチカラプロジェクト」に参加し感謝状を頂いた。
(5) 学習意欲あふれる生徒の確保
① 入試アドバイザーによる県内中学校や熊本市内学習塾への訪問を実施した。
② コロナウイルス感染防止に十分配慮した上でオープンスクールやサタデーツアー、ナイト説明会などを実施した。
③ 専願生SS特待生の条件を従来の郡部からだけでなく熊本市内の受験も可に変更した。
(6) 学校評価
① 昨年度の学校評価を4月に実施し、全職員で共有した。

尚綱大学短期大学部附属こども園

- (1) 教育・保育内容の改革と尚綱らしさの追求
① 園内環境の整備・構成と望ましい生活を通して、園児の健やかな成長を図る教育・保育を実践した。
② ことども園としての「全体的な計画(教育課程)」(尚綱教育・保育プラン)を完成させた。
③ 短期大学部幼児教育学科と教育実習の在り方を改善しつつ、4年制大学生の教育実習を見越した検討をしている。
④ 尚綱食育プロジェクトチームで、令和3～4年度の2年計画で、幼児期における食物を「噛む」ことに関する啓発と研究を行った。
⑤ 尚綱らしい「食育の計画」と「給食の計画」が一体化した実践に努めている。
(2) 園児の確保
① ホームページの「お知らせ」欄に年間147件掲載し、本園の魅力や保護者の喜びにつながる情報提供を行った。
② 在園児の弟妹申込は14名だったが、新たに設けた卒園児弟妹の申込は5名に過ぎなかった。年少3歳児定員80名の確保が難しく69名だった。
(3) 子育て支援の充実
① 午後保育・一時預かり保育は、全年齢が会するため、人員面・安全面等コロナ感染症拡大防止に可能な限り配慮して取り組んだ。
② 地域保護者への子育て支援として、子育て支援室「どんぐりルーム」を中心に、大学・短大と連携しながら、講演会や保育体験、子育て相談会等を実施した。
(4) 教育・保育の指導力向上
① 園内研修の時間に、教育・保育や安全性向上などと共に関し、特別支援教育や人権教育の視点から、行政担当課や療育施設等との情報交換を行い、実践的な学びを重ねた。
② 園外研修は、県、市、町及び全幼研、全保研等が主催する幼児教育、特別支援教育、実技等の研修会へ参加した(主にリモートやオンデマンド)。
(5) 地域連携の拡充
① 8月下旬の美化作業は教職員だけではならず、30名程度の保護者にご協力いただいて実施した。
② 地域自治体主催の協議会等に寄与し、「幼保小中連携カリキュラム」を作成した。
(6) 学校評価の充実と活用
① 教職員による「目標達成度評価」、及び学校自己評価を実施し、保護者と第三者による「学校評価」を実施し、結果を公表した。



令和4年度 学校法人尚絅学園事業計画書

I. はじめに

尚絅学園は平成25年に向こう10年間の学園の中長期計画として「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」を制定し、その後、平成27年、平成29年、令和元年及び令和3年の計4回改定を行いながら、学園のビジョンの実現に向けて取り組んできました。今回の令和4年度事業計画書は、改定した「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」及び「中期財務計画」に基づき、中長期計画の総仕上げとしての諸課題への取組に加え、環境変化に伴う諸課題に適宜迅速かつ柔軟に対応し、着実に施策を実施するための年度計画になっています。

II. 主な施策

1. 学園全体・学校法人

本学園が教育研究機関として社会の要請に応え、学生・生徒等がよりよい環境で充実した学校生活を送るためには、経営力の強化による安定的でかつ強固な財務基盤の構築、人材育成の強化、施設設備及び教育・研究環境の整備が必要不可欠です。

- 経営力の強化

規律と誠実性を維持しつつ、学園を取り巻く環境変化に迅速に対応すべく、ガバナンス機能・組織マネジメントを更に強化し、組織力の結集強化に努めます。

情報公開を積極的に進め、学園の経営状況のさらなる可視化を図ってまいります。
- 強固な財務基盤の構築

安定した収支バランスを確保・維持していくための実効性のある施策を立案し、着実に実施することで、強固な財務基盤の構築を目指します。

現状の経常収支を改善し、収支のバランスの適正化に向け、各設置校における定員充足率向上による学生生徒等納付金の増加、補助金の積極的な獲得、適切な人件費支出、教育の質向上に資する教育研究・管理経費等の支出に取組みます。また、予算執行については、コンプライアンスに基づき、厳正かつ正確な処理に努めます。
- 人材育成の強化

学園・設置校に有為かつ適正な人員を確保しつつ、多様化する学生・生徒等への柔軟で的確な人材の育成を目指します。

その為に必要なる人材育成計画の構築と有効な研修の計画的実施、教職員一人ひとりの資質・能力向上と職能開発の促進に努めます。
- 施設設備及び教育・研究環境の拡充

中期施設整備計画に則り、教育・研究環境の拡充に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策、DX推進プロジェクトによるICT環境やインフラ整備に取組みます。

2. 尚絅大学・尚絅大学短期大学部

令和4年度は、「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」の最終年度に当たり、スピード感をもって積み残された課題に取り組むとともに、10年間の成果と課題を明らかにし、変化する時代に相応しい第2期の「中長期計画」を作成します。

- 入学定員の確保

本学の課題である入学定員の確保については大きく後退しており、全力で入学定員充足率の引上げを図ります。そのために、高校生及び社会のニーズに即応した入試広報体制の整備に努めるとともに、各学部・学科の独自性を生かした魅力度アップに取り組めます。
- 教育と学修

教育と学修については、対面授業を基本にしつつ遠隔授業のよいところやDXなどを取り入れ、学修成果の見える化や学修効果の得られる学修環境の整備に引き続き取り組みます。研究については、引き続き、産学官の連携に基づく共同研究の推進、外部資金の獲得及び研究倫理の遵守に取り組めます。社会連携に関しては、尚絅食育研究センター、尚絅子育て研究センター、尚絅ボランティア支援センターの活動を活性化するとともに、尚絅地域連携推進センターの機能強化を図り、社会的貢献の諸活動を推進し、本学の地域社会での存在感をさらに高めます。また、尚絅食育推進プロジェクトやくまモン学プロジェクトについては、組織の充実を図りながらさらに研究活動を推進し、研究成果を発信します。グローバル化推進については、現地での学びや交流に加え、オンラインを有効に活用することにより、一層の推進を図ります。
- IR及び自己点検

IR及び自己点検に関しては、内部質保証の課題に適切に対応できるよう、委員会の設置等体制を整え、PDCAサイクルが効果的に回るよう努めます。

3. 尚絅中学・高等学校

令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止による環境変化、また、それに伴う教育活動の変化、今年度より実施される新学習指導要領に基づいた授業展開など目まぐるしく変化する教育界において、今までの事業計画を踏まえて、さらなる事業内容の充実と新しい事業の取り組みを以下のように策定しました。

- 特色ある教育の確立

特色ある教育の確立については、「建学の精神」「教育理念」を基に、新しい生活様式の中、様々な取り組みを通して知識・技能・思考力等のバランスの取れた生徒の育成に努めると共に、DXの推進、また生徒の学力向上及び教師の指導力アップを念頭に置き、生徒が満足する教育活動に取り組めます。また、知育・徳育・情操教育を中心に女子教育の充実を図り、これからの新しい社会に向けて必要な能力が身につく取り組みを行い、グローバルな社会で活躍できる人材育成を目指します。
- 教育の質向上

教育の質向上については、生徒に「何ができるようにするか」という具体的な目的を明確に示すことにより「何のために学ぶのか」という学習の意義を生徒が自ら考えるような授業展開を行います。その為に新学習指導要領に対応したカリキュラムを確立するとともに、今年度高校入学生より購入するタブレットを用いた授業内容や教育の質の向上のためのプログラム作成、また、オンライン学習の研究を深め、新しい生活様式を取り入れながら学校行事や課外活動、広報活動に取り組めます。また、生徒の将来に深く関わるキャリア教育の充実にも努め、これからの社会で活躍するために必要となる資質の向上を目指した人材育成に努めます。
- 生徒支援の確立

生徒支援の確立については、令和2年度に改正された就学支援金制度の内容を視野に入れて、生徒が安心して学べるように経済的に就学困難な生徒への各種制度を充実させると共に、育友会・同窓会・後援会との連携を一層深めて生徒の日常の学業・課外活動等の支援体制を整えます。
- 地域貢献の充実

地域貢献の充実については、社会のニーズに応じて環境活動や地域社会に積極的に参加できる人材を育成すると共に、地域に開かれた学校として学校の特色を活かした地域の行事への参加、ボランティア活動、及び各種大会を主催して地域への活性化に貢献します。
- 学習意欲あふれる生徒の確保

学習意欲あふれる生徒の確保については、女子の総合学園として短大・大学への内部進学を希望する生徒の募集に力を入れると共に、様々な生徒を広く受け入れるためにコース毎の魅力を再検討します。公立小学校・中学校に加えて学習塾や地域、生徒・保護者広報部との連携を深め、広報活動の充実を図ります。
- 学校評価

学校評価の意義と目的を全職員が理解して、学校運営に反映させ、より良い学校作りに活かします。

4. 尚絅大学短期大学部附属こども園

附属こども園では、「認定こども園教育・保育要領」等3法令の改訂等の趣旨を受け、教育・保育の目標達成をめざし尚絅らしさを生かした改善・充実に努めるとともに、在園児保護者と地域保護者の支援に努めるという2つの目的の達成に努めています。

- 教育・保育

「尚絅らしさ」を「子どもの発育にふさわしい自然の風情をそのままに生かし、環境の構成(教育的な意図)を創造し、子どもの心身の発達を助長すること」と捉え、今後もこの「尚絅らしさ」を軸に、保育者全員が温かい愛情に満ちた教育・保育を推進します。令和2年度から3年度にかけて、「食育の計画」「給食の計画」等とも連動させた教育・保育の「全体的な計画(教育課程)」を完成させました。今後は、これを基に尚絅らしい教育・保育の実践段階に入ります。コロナ禍中においては、計画通りにいかないことも多く、その都度、教職員や保護者のみなさまのご意見と工夫・協力で乗り切ってきているところです。
- 保護者支援

日頃の教育・保育の充実やPTA(杉の子会)との協力と共に、在園児保護者にも地域保護者にとっても安心できる子育て支援を「どんぐりルーム」や子育て相談会等で推進しています。ここ数年、特別な支援を必要とする園児や配慮・支援を要する保護者が増えています。そこで、園児の安全性の確保や発達特性に応じた教育・保育の対応力の向上、療育との連携・協力、保護者の相談事業等もはとより、保育者数を確保することが急務となっています。
- 園児数の確保と収支改善

近隣地域は海外からの進出企業の影響もあり、熊本市のベッドタウンとして人口が増加し少子化の影響は少ないものの、共稼ぎ家庭の急増に伴い1号園児が減少し小規模保育所の需要が増えています。本園では1号園児数を確保するために、従来の在園児に加えて卒園児の弟妹枠を設けましたが定員に満たず、令和3年度には保護者の需要に応じて「一時預かり保育」の人数増を行い新2号園児の確保に対応しました。今後は、必要な教員数を年度当初に確保した上で、園児数の確保のために満3歳児の受け入れ人数増や、暫定的に2号・3号園児の定員120%までの受け入れ、将来的には定員の見直し等の対応に迫られています。
- 保育者の確保

全国的な保育者不足であり、本園でも保育者確保ができないと園児の確保もままなりません。国はこれまでの処遇改善事業に加えて「処遇改善臨時特例事業」を始めて保育者の待遇改善を図り確保をめざしています。本園でもこれらの事業を活用して国が求めているレベルの処遇にすることが急務です。
- DX推進課

動画を作成・配信したり、Zoomで登園自粛中の家庭とmeetingをしたり、一時預かり保育のメール受付等を行ないながら、保育者や保護者の利便性を高めています。さらに、ソフトの選定・導入等できるところから取り組んでいます。広報誌やHP欄の充実、地域社会や自治体・市町教委、小・中学校、諸機関との連携、学校評価を生かした教育・保育の改善にも取り組みます。最後に、令和5年度からの4年制新学部新設を見据えて、教育実習の在り方の改善・開発の協議も始まっています。今後とも、学校法人としての社会貢献度を高め、附属園の使命として次世代保育者の育成に努めます。



尚絅大学・尚絅大学短期大学部 イベント情報

大学オープンキャンパス2022

開催日 令和4年7月24日(日)、7月31日(日)、令和5年3月25日(土)

- 対象** 高校生および受験希望者とその保護者
- 時間** 午前10:00-12:00 / 午後13:30-15:30
- 申込** 事前予約制
- 申込方法** 本学ホームページ



ホームページ



※新型コロナウイルス感染症等の状況により、変更等を行う場合がございます。
※申込締切後に参加をご希望の場合は、入試センター(TEL:096-273-6300)までご連絡ください。

場 所 **九品寺キャンパス**
〒862-8678 熊本市中央区九品寺2-6-78
TEL 096-362-2011 FAX 096-363-2975

学部学科	現代文化学部 文化コミュニケーション学科
	生活科学部 栄養科学科
	短期大学部 総合生活学科
	短期大学部 食物栄養学科

場 所 **武蔵ヶ丘キャンパス**
〒861-8538 熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北2-8-1
TEL 096-338-8840 FAX 096-338-9301

学部学科	こども教育学部 こども教育学科(仮称) ※2023年4月開設予定(設置認可申請中)
	短期大学部 幼児教育学科

【お問い合わせ先】 入試センター TEL:096-273-6300 FAX:096-273-6781 E-mail:nyushi@shokei-gakuen.ac.jp

尚絅中学・尚絅高等学校 イベント情報

中高オープンスクール・説明会

	開催日	時間
オープンスクール	第1回	7月23日(土) 9:30～
	第2回	8月 6日(土) 9:30～
	第3回	9月10日(土) 9:30～
ナイト説明会	第1回	11月 4日(金) 18:30～
	第2回	12月 2日(金) 18:30～
入試説明会	第1回	11月12日(土) 9:30～
	第2回	11月19日(土) 9:30～



- 対 象:** 小中学生とその保護者
- 申 込:** 事前予約制。各中学校からのFAX又はホームページより申込み可能です。
- 内 容:** 学校紹介・コース紹介、部活動紹介、入試説明、校舎見学、個別相談
- 場 所:** 尚絅中学・高等学校(九品寺キャンパス)
- ※状況によって中止、または開催方法等の変更の可能性があります。
変更する場合は本校ホームページでお知らせいたします。
- ※個別の学校案内、Web個別相談はホームページから随時申込可能です。

申込方法 本校ホームページ



ホームページ

【お問い合わせ先】 中高事務室 TEL:096-366-0295 FAX:096-372-8341 E-mail:jhjimush@shokei-gakuen.ac.jp